



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 5月号

令和5年4月28日

横浜市立青木小学校

子どもたちの姿から感じる 青木の風

校長 後明 好美

令和5年度がスタートして1カ月が過ぎました。1年生の子どもたちも、地域・保護者の皆様や上級生、教職員に支えられ、徐々に学校生活に慣れ始めている様子です。青木の子どもたちを見つめて1カ月、素敵なお話がたくさん見えてきました。今号では、そのいくつかを御紹介します。

6年生のひたむきな姿

4月中旬、1年生を迎える会が開催されました。中の記事にもありますが、会はこれまで3年間はテレビ放送でしたが、本年度は全校が集まって開催ができました。当日は、前年度の学校進行委員会と集会委員会の6年生が中心となって会の運営を行いました。全校児童を前に運営を行うのは4年ぶりだったので、担当の子どもたちはさぞ緊張したことと思います。しかし、6年の子どもたちの姿は素晴らしいものでした。

委員会の子どもたちは、全校に向けて堂々と、明瞭な説明や言葉で会を進行しました。特にその姿が際立ったのは、全校でかかわりを深めるゲームの場面でした。ゲームはいわゆる「仲間集めゲーム」で、進行係の子どもたちが示す人数でグループを作るというものでした。進行係の子どもたちは、大きな声とジェスチャーでゲームを次々に進行させていきます。全校の子たちは、久しぶりのゲームに始めはぼかんとその姿を見ていましたが、徐々に進行係の動きを真似るようになり、最後は引き寄せられるようにステージの方に集まり、一緒にジェスチャーをしていました。6年生の子どもたちは、汗をかきながら懸命に進行等をしており、ひたむきな姿が光っていました。

企画運営だけでなく、6年生の姿は立派でした。1年生と優しく手をつなぎ一緒に入場したり、簡単なゲームを自ら楽しみ切ることで、全校を盛り上げたりしていました。このようにひたむきで優しい姿を見て、下級生たちが「いつか6年生の〇〇さんのようになりたい」と憧れ、成長していくのだと思います。

下級生を成長を促す上級生

翌週には避難訓練が行われました。全校が「おかしも（押さない かけない しゃべらない 戻らない）」を守って、正しく校庭に避難できました。1年生もしっかりと訓練に参加ができました。これは、2年生から6年生までがしっかりと訓練できている雰囲気が、1年生にも伝わっていたということも、影響しているのとらえています。4年生、5年生、6年生は訓練終了後、下級生が校舎に戻っていくのを待って、最後に教室へと向かっていきました。静かに、落ち着いた姿で下級生の行動を見守り、待つ姿が素晴らしかったです。

子どもたちが創り出す校風「青木の風」

「青木の風」は、子どもたちと地域・保護者の皆様、そして教職員が創り出す雰囲気、校風ととらえています。子どもたちの素敵な姿が核となり、青木の校風「青木の風」を創り出すのだということをはっきりと見ることができた4月でした。これから上級生たちのリードのもと、764名の子どもたちがどのような150年目の「青木の風」をこの学校に吹かせていくのか、楽しみにするとともに、その姿をしっかり見守っていききたいと思います。

5月もどうぞよろしくお願いたします。